

(別紙の2)

自己評価及び外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	「共生・協働・感謝」の理念をホーム内に掲示するとともに、職員全員が理念の具体化に努めている。	玄関には、事業所運営理念と、運営母体である創生活環境の社は『共生・協働・感謝』が掲げられ、志すことは感謝の心を忘れず、共に生き、人としての尊厳を守ることの実践。理念・社は新人研修時から、職員全員が年間を通して認知症の理解・ケアの心構えを行動に繋げています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している。	コロナ禍で、事業所行事に地域の方を招待することなどは難しいが、レベルに応じて、地域の区長様や民生委員の方を中心に、施設の見学や説明を行っている。	事業所を、地域に開かれた場所として、3か月に1回は下飯田の区長、民生委員の方など関係する皆様に、施設の見学や説明をしています。地区の敬老会へは、感染レベルが4以下の時は参加させて頂いた事もあります。毎年、地域の方から柿や野菜も頂いております。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	年に6回の運営推進会議を通じて、当事業所の状況報告、地域との連携を日々模索し、民生委員のボランティア活動などの受け入れを行っている。	NPO法人コミュニティーケアサポートと連携し、認知症傾向の困りごと相談も受け付けています。区長経験した方に、地区のサポーターとして引き続き関わって頂いています。民生委員さんが、傾聴ボランティアとして定期的に訪問活動をして頂いています。	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、その意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議を定期的に開催し、取り組みについて報告している。	コロナ感染レベルが4以下になった時は皆様にご参加いただき、取り組みなど話し合いで開催が出来ましたが、今は2か月に1回の書面開催になっています。委員は区長、区長経験者のサポーター、安曇野市の介護保険課、家族会代表、豊科交番所長、民生委員、NPOサポート理事、事業所職員など14名になります。今後は会議録を、ご家族様や誰でも閲覧できる様に掲示をする様にしたいとの事です。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	市の担当者とは、相談事項やケアサービスの取り組みなど様々な機会を通じて伝えている。	市の介護保険課と加算のご相談や、コロナの検査キットなど、様々なケアサービスの取り組みをご相談しています。運営推進会議録などもお届けして、情報共有、情報交換をしています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	日中(午前9時～午後4時)は開錠しており、離脱対策も考えながら、拘束防止のために取り組んでいる。	認知症の重度の方が2名居られ、日中の開錠をしていますので、離脱対策や転倒防止など考えて取り組んでいます。拘束防止委員会は3か月に1回開催し、何でも言い合える雰囲気づくりをしています。精神疾患のある方は、ご家族に説明し、確認を頂き1回だけ拘束があります。ご家族様(続き柄明記)から拘束始め・終わりに捺印頂く様にもお伝えしました。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	他施設やニュースなどの事件、事故事例会議にて検討し、当施設の業務に反映させている。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	家族より相談があり、活用している人がいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	十分な説明を行い、また日常的な疑問・質問に答えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	コロナ禍により、家族会は中止している。面会や電話などで、家族の方と話をし意見や想いを共有している。	コロナ禍で家族会の中止により、ご家族様に1週間に1回はお電話をします。利用者様の欲しいもの・消耗品などをお届けいただく際に、ご家族と話し、ご意見や想いをお聞きしています。また、日常の様子は毎月お便りと、リーダーから普段の体調や生活の様子を報告し、お写真をお送りしています。	ご家族アンケートに無回答の方が3名居り、ご利用者様と、ご家族のご高齢に合わせて、成年後見人を付けている家族が3組いらっしゃるの事。ケアをしっかりとされている事業所なので、報告に際してはご家族に捺印を頂くなど、関心を持って頂ける様に期待いたします。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	労使委員会にて、職員の意見を代表者に提案している。	朝のミーティングで日常の意見を聞き、カンファレンス会議、利用者さんの申し送り時や困りごと相談を受けています。事業所の運営や決定事項は、毎月のスタッフ会議で、質問意見を聞く機会を持っています。社内研修で意識の向上や日々の課題を話し、年2回の面談時も意見を聞く様にして、代表者へ提案しています。人材サポートの育成支援を受けています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	自己評価表・自己啓発を使用して各職員が目標・実績・評価を行っている。運営者、管理者も各職員に対してアドバイスを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	1年間の研修プログラム、個人のスキルアップの為、入社から5年間のプログラムを進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	グループホーム部会や外国人材の取り組みなどを通じて、交流をはかっている。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	事前見学、訪問により本人と話す機会を設けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	電話相談、見学、訪問により家族と話す機会を作り、話をする中で信頼関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	申し込みに来た方からの情報をもとに判断し、他のサービスもすすめている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	弊社の理念、ケアの心構えに取り入れ実践している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族とのコミュニケーションを重視し、利用者を軸に支えあう関係ができています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	今までの生活歴も配慮し、本人の大切な物事、人に対して継続的な関係が維持できるよう支援している。	独自のエピソードインタビュー用紙を活用して、日々の話や家族、近所のお友達からお聞きしています。今までの生活歴・仕事や大切な交友関係、大事にしていた・しているもの、服装や趣味などを把握できる様に工夫しています。その上で、継続できる関係などを支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者関係を配慮し適切な支援提供、孤立しないよう個別支援にも取り組んでいる。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	手紙での交流や相談を受けたりしている。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常生活の中、利用者との会話や行動などを観察し、その人のニーズを受け取り、支援に反映させている。	担当者会議は1か月に1回開催し、また、独自のエピソードインタビュー用紙で聞き取りをしています。ご家族や、ご本人の会話や行動からも、その人らしい暮らしが続けられるニーズを、スタッフ全員が汲み取り共有できる様に関わっています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご家族や本人から、状況に応じた聞き取りや情報収集をして把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日々の状態観察、職員間で情報交換を行い現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	職員各自が課題を出し合い、モニタリングし、ケアカンファレンスにてケアプランを作成している。	ケアマネージャーが、利用開始前に、本人とご家族から意向をお聞きし、3か月毎に毎月、3名の方のモニタリングを実施。モニタリング記録を残してケアプランを作成しています。職員各自が課題を持ってモニタリングに参加し、ケアプランに反映できる様にしています。書類で確認しました。ご家族様に記録を提示して、ケアへの意識づけも提案させて頂きました。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個人記録、業務日誌、申し送りノート等記録して情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	同社内(敷地内)の看護小規模多機能等との協力でグループホームだけではない関わりもしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域の行事に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	受診内容、薬についての説明等、家族のお知らせの中に入れて情報提供している。また必要に応じてご家族に受診同行をお願いしている。	利用者様が皆、かかりつけ医があり、往診をして頂き、訪問看護も連携しています。協力医は職員が付き添い、かかりつけ医・協力医の受診記録は、丁寧に記録されていました。その都度ご家族へ電話で報告もしています。記録で確認致しました。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	訪問看護ステーションが定期的な健康管理、緊急対応をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の家族との調整、また早期退院に向けて病院関係者、契約訪問看護師、家族と共にカンファレンスを行っている。必要に応じた個別契約訪問看護等対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	早期から医師を含めたカンファレンスを行っている。24年度より協力医、訪問看護の協力のもと看取り支援を行っている。	これまでも看取り支援をしており、ターミナルケアに、ご家族の同意書を頂いています。利用者様の容態に従い、協力医・訪問看護の協力を得て、医師を含めたカンファレンスを実施しています。その内容の記録の提案をさせて頂きました。グリーフケアはご家族も含めて、遺品やお写真を整理しながら、皆で偲びながらお話をしています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	定期的に緊急時対応マニュアルの確認をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	地域防災訓練に参加、災害時の地域協力態勢を築けている。	地元自治会の地域協力体制が出来ており、地域・消防署立ち合いの合同訓練は年2回実施、連絡網・通報など実践しています。毎月1日は避難訓練の日になっており、防災品、ヘルメット、ランプ、防寒用品、オムツ、食料(缶詰や乾パン・非常食)の備蓄、倉庫の確認をしています。	

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	利用者のなじみの言葉も使いながら、プライバシーの尊重をしている。	新人研修、人材サポートの接遇研修、挨拶や電話対応の研修を実施しています。タイとベトナム出身の職員が3人おり、日本語検定と介護福祉士を目指し、笑顔で利用者様と接しています。本人の生活のペースに合わせ、トイレ誘導など観察してキャッチし、一緒に歩いて地方の方言でのお声掛けも工夫しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	利用者がニーズや想いを表すことができるよう支援している。また自己決定しやすいよう分かりやすい言葉がけに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	基本的な1日の生活の流れがあり、その中で一人ひとりのペースを大切にしながら希望に合う支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	化粧品や装飾品など本人が望む品を購入できるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食材整理から食事準備まで利用者が関わることができ、お菓子などの希望等、利用者の意見を取り入れている。	外部の業者(ワタミ、タイヘイ、ゼロクック)など、献立・食事内容に合わせて、おやつなどは希望もお聞きしながら利用しています。お寿司、ベトナム料理も提供しました。夏野菜は畑で出来る時期は取り入れ、季節感を大切に、梅はジュースにしたり、カボチャや野沢菜など頂いたものも食卓に上ります。利用者の方には、盛り付けなどのお手伝いも気持ち良く協力して頂いています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	摂取量の少ない利用者に対しては補助食品(ゼリー、飲料など)を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	基本的に毎食後の口腔洗浄、歯磨きの声かけを実施している。義歯の洗浄を定期的に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	各利用者の排泄パターンや、支援のタイミングをつかみ実施している。	排泄表で個々の排泄パターンを把握しながら、おやつでゼリーや乳酸菌飲料、お浸しなど、後は薬も併用して調整しています。足上げの体操や歩くなど、体調を整え、排泄刺激もしています。寝たきりの方は居らず、リハビリパンツの方が殆どで、排泄の自立支援を確保しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	チェック表を使用して、水分の促しや繊維質の食事提供、日々の体操を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	入浴希望者には声をかけ、入浴時間と本人の予定と調整をはかっている。	入浴時間は午後を希望する方が全員で、昼食後から夕方までの時間に、お声掛けて入浴して頂いています。脱衣室やお湯の温度など、気持ち良く入浴できる様に配慮し、入浴剤や柚子、菖蒲など香りも楽しんで頂いています。気の合った利用者さん同士で入浴するなどもあります。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	体調や希望に応じ、自由に居室・ソファ、たたみの間を使い休息をとっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	受診時の説明は申し送りノートに記入し、服薬説明書はケースファイルに保管して、職員全員が確認できるようになっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	庭、畑仕事や家事参加から自分の仕事として取り組み、生活に張り合いが生まれている。利用者それぞれの気晴らしや楽しみを、日々の中で提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	散歩、テラスにでるなど、希望にそって外出している。	お花見、花火、敬老の日、葡萄狩り、紅葉狩り、運動会など、戸外へ出かける事と、施設のテラス・ベランダで楽しめる事が計画され実施されています。外出は車椅子の方1名に職員が付き、2名の方を1名の職員が担当しています。目の前に田畑、近所に大きな樹がある公園緑地もあります。	

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	利用者それぞれ嗜好品を購入するには、ご希望を聞き、支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	手紙、電話のやりとりは自由になっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	希望の花を飾ったり、過ごしていても不快にならない環境整備に取り組んでいる。季節によって日照時間が異なるためカーテン等を使用し光の調整に努めている。	皆様が集う共有の食堂とリビングは、木材の温もりと4方向に大きな窓があり、明るく暖かみのある空間になっています。懐かしい唱歌など、横に間を空けて集われ、楽しそうに合唱されていました。コロナ禍で、アクリル板で食卓は仕切りがなされ、感染防止にも配慮されています。ぐるっとテラスが取り付けられ、外の空気や景色に触れられる構造になっています。	職員の皆様が笑顔で、ケアに集中できる様に対応をされています。それはケアの温かさとして十分理解しています。廊下や共有スペースの床の端などの埃も、こまめに清掃できる様に、清掃専任のバイト人材などを利用されることを期待します。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	皆でくつろげる畳スペースや一人でテレビをみたり、新聞を読む楽しみをもてる環境(ソファ)を設けている。気の合う方同士のテーブル配置にも心がけている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご家族と相談をして、利用者が居心地よく過ごせる環境作りをしている。	全室が窓に面していて、外の景色が望め、テラスが付いています。備え付けの家具の他、ご家族と相談して持ち込むものや、ご家族の写真、手作り品など、ご利用者が居室として安心して、安全に寛げるように配慮されています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	共同生活の中で、利用者それぞれのできることを、自由にコーディネートしながら行えるよう支援している。		